



日本記者クラブ記者会見

## 黒人解放運動への日本政府の援助は不十分

ネルソン・マンデラ ANC（アフリカ民族会議）副議長

1990年10月30日

日本政府は、わが国の国民の状況を改善するために180万ドルの貢献をした、と言っております。アフリカの貧しい国、あるいはアジアの他の国、特に西側の先進工業国の貢献と比べた場合、日本政府の貢献は非常に小さい、不十分なものです。

なぜならば、アメリカは今年3100万ドルの貢献をしております。イギリスは直接援助として3500万ポンド、さらにECを通じて南アフリカ国民向けに、400万ポンド支出しております。日本よりもはるかに貧しいアフリカの国々も積極的に応じていております。例えばナイジェリアに対して、われわれは500万ドルを要請し、ナイジェリアは直ちにそれに応じております。

< 質疑応答から >

われわれのグループ一行は、日本政府の招待により来日しました。われわれは今回の日本政府の招待を大変歓迎しております。なぜならば、日本はアジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界全体にとって、重要な地位を占めているからです。

#### 南ア援助は日本の利益

日本政府は、われわれが建設の努力をしている新しい南アフリカと、安定した、かつ友好的な関係を築きたい、という希望をもっております。わが国に自由が達成されたあかつきには、わが国の経済を再建しなければなりません。その過程において、日本政府及び日本の参加がわが国にとって大きな利益となるでしょう。それは、日本の国民にとっても大きな利益となるはずで

す。こういうふうに申し上げますのは、第二次世界大戦後の日本の目覚ましい経済的な回復をよく知っているからです。日本は、普通であれば全く打ちのめされてしまったであろう国を、短期間に見事に回復させた経験をもっています。

今回の訪日の目的の一つは、わが国において起こりつつある政治的な発展に関して、日本政府にお話すること。もう一つは、この機会を利用して日本の経済界の方々に、われわれが築こうとしている経済的なプログラムについてお話しすること。すなわち、わが国内外のビジネスマンの協力、特に日本のビジネスマンの協力を得て、この経済建設のプログラムを進めていきたい、という話を日本の経済界の方々とすることです。

最初の話はこの程度にして、あとは質問にお答えしたいと思います。

#### 質疑応答

伊高(共同): わが社もヨハネスブルクに支局を持っています。私もかつてそこに3年ばかりいました。当時、一番会いたかったマンデラさんは牢獄にいました。本日、こういうふうにお会いできて感慨無量です。

さて質問です。アパルトヘイトをなくすための本格的な交渉を開始するには、いろいろな障害があったわけですが、昨日までのインタビューとかその他の機会で、マンデラさんは、「障害はほとんど除去された」と言われた。残るいくつかの差別法については、「来年2月から始まる白人国会で撤廃されることを希望する」と言われた。

白人国会は普通6月ごろ終わるわけなので、そのころANCは南アフリカで大会を開くことになっている。そういうことを考えると、来年6月ごろから本格的な政権交渉が始まるのではないかと思うんですが、まずこの辺についてお考えを伺いたい。

ヨハネスブルクから入ってくるいろいろな情報を総合すると、まず最初に白人政権のデクラークさんがアパルトヘイトをなくす、と宣言する。その後、暫定政権をつくる。さらにその政権議会をつくる。そこで憲法の草案をつくり、全人種融合の一人一票制に基づく民主社会ができる。こういうシナリオもあると聞くわけです。

これについてのお考え、そしてマンデラさん自身、一体、一人一票制の自由な社会が19XX年に実現すると考えているのか、19XX年を聞きたいわけです。

マンデラ: これまで私が話してまいりましたような障害の除去があったわけですが、けれども、その次の段階の障害の除去が来年6月以降しか始まらない、というのは間違いです。私は帰国し次第、デクラークに会うつもりです。そして、そこでANCと政府との間の第3次サミットを開いて、われわれの道をいかに切り開いていくかを正式に話し合うよう、提案するつもりです。

#### 一人一票の制度実現を

従って、次のステップは新憲法を制定するための組織を決定していくことになります。現在の南アフリカの事情からいって、そんなに長い時間を浪費する余地があるとは思っておりません。私は、一人一票の制度に少しでも早く進むことができるよう、直ちに会合を開

くことを要求するつもりです。

いつ新しい南アフリカができるかを、具体的に申し上げることはできません。そのようなことを申し上げることは、私にとって直ちにマイナスとなって響いてくるでしょう。ただ、現在言えることは、ANCも政府もできるだけ早くゴールを実現する、解決に到達する、ということに非常に熱心であるということです。

次にANCと政府が共に問題としておりますのは、制裁の問題です。経済制裁は、南アフリカの経済に非常に大きな害を及ぼしており、その除去に関しては政府と同様、われわれもまた強い関心を持っております。しかし、われわれは経済制裁の除去に関して、はっきりとした条件を設定しています。一人一票の原則が達成されるまでは、制裁を再検討することを認める用意はありません。

フェルナンド・ホゼ・ロドリゲス(フォーラ・デ・サンパウロ紙特派員): 二つ質問があります。

今回のオーストラリアを含めたアジア諸国訪問の一つの目的は、ANCの資金を得ることですね。今までどの位の額が集まったのか、お話しいただきたい。

もう一つ、日本政府はANCのような組織に公的に資金を出すことは難しい、と言っています。海部総理との会談で、何か違った方法で資金を出すといった代案について話し合いがありましたか。

マンデラ: 今まで3か国を訪問し、日本が4番目です。訪問した3か国はすべて、われわれの資金及びその他の資源に対する訴えに対して、はっきりとした公式声明を行っております。そして、このことは一般にも知られていることですので、自由に数字を申し上げることが出来ます。

インドは2000万ルピーを、インドにおける物資の買い付けのために提供しました。それに加えて580万米ドルの提供を、その場で約束しました。インドネシアに対しては、われわれは1000万ドルを要請し、その額をそのまま受け取りました。オーストラリアか

らは1500万ドルを受け取っております。

日本に関しては、われわれの要請を既に提出しており、現在、日本政府が検討しています。このことは既知のこととなっています。われわれが日本政府に要請したのは、2500万ドルです。

海部首相との会談について、具体的な内容をマスメディアに話すことは適切ではありません。

ジェームス・モア(スターズ&ストライプス特派員): 先週オランダでデクラーク首相が、もし黒人の大統領が選ばれたら喜んでその下で仕えるつもりだ、と言いました。これはあなたに対して、大統領に立候補しないかという“招待”ではないかと思われませんが、大統領に立候補する意思はありますか。

大統領選への出馬は?

マンデラ: もしあなたが南アフリカの大統領選挙に出るならば、私はあなたを支持します。しかしながら、私個人の立場としては、それは私が決めることではなく、南アフリカの選挙民が決めることです。

デクラークが先週言ったことに対して、私が現在言えることは、彼が言ったのは、南アフリカの選挙民の決定を守る用意があるということでしょう。すなわち、彼はそのような決定がなされたならば、それを尊重するということです。その立場は私も同じです。もしデクラークが国民の選挙によって選ばれたならば、私も彼に従います。

草生(ジャパントイムズ): 日本政府がこれまでやったこと、あるいはやってこなかったことに関して、マンデラさんは明快な評価を避けてこられたように思います。日本政府の今までやったことに関して率直な意見を伺いたい。

マンデラ: 日本政府の今までの行動に関して、率直な意見を避けてきたという印象を与えたことは、非常に残念に思います。はっきりせよとの質問が出ましたの

で、私もはっきり答えます。それに基づいて判断してもらいたいと思います。

日本政府は、わが国の国民の状況を改善するために180万ドルの貢献をした、とっております。アフリカの貧しい国、あるいはアジアの他の国、特に西側の先進工業国の貢献と比べた場合、日本政府の貢献は非常に小さい、不十分なものです。

なぜならば、アメリカは今年3100万ドルの貢献をしております。イギリスは直接援助として3500万ポンド、さらにECを通じて南アフリカ国民向けに、400万ポンド支出しております。日本よりもはるかに貧しいアフリカの国々も積極的に応じてくれております。例えばナイジェリアに対して、われわれは500万ドルを要請し、ナイジェリアは直ちにそれに応じております。

アジアの国々の貢献と比較しても、日本政府の貢献は非常に不十分です。しかし、そのような少額であっても、われわれはそれを評価しています。きょうの経済界の人たちとの話においても、日本のビジネスマンは、日本政府及び日本の経済界のこれまでの貢献が非常に少なかったことを認め、今後増やす方法を検討する、とっております。

以上、避けていないということがお分かりいただけたいと思います。

芝(朝日): アパルトヘイト政策廃絶を目指すANCの闘争がかなりの成果を上げているときに、黒人同士の衝突が多数の死傷者を出している。ANCの支持者とインカタ(民族文化解放運動)の支持者との武力衝突が、ナタール州及びヨハネスブルク周辺で相次いで発生し、既に今年の夏だけでも800人程度の人が殺されている。

なぜ黒人同士が生命を奪い合うほど衝突しなければならないのか。イデオロギーによる対立に基づくものだけなのか。それともインカタはズールー族を基盤としており、部族対立、トライバリズムがそれに絡んでい

るのではないかという見方もあるわけですが…。

さらに、この黒人同士の流血の衝突によって、黒人が将来、政権を担当した場合、その政治能力を疑う向きもあるんですが、これについてどう考えておられるのか。

さらに、インカタも、あるいはPAC(パンアフリカニスト会議)、その他の政党、政治組織も、新憲法制定の交渉に加わると予想されるのですが、こういうANCとインカタの対立がある中で、黒人の間の調整がつかどうか、見通しを伺いたい。

マンデラ: ここでは、宣伝のプロパガンダのステートメントとそうでないものとをきちっと分ける必要がある、ということをはっきりと申し上げたいと思います。

なぜならば、この事が現在における大きな悲劇の一つであるからです。すなわち、利己的な動機によって行われているプロパガンダ活動の裏にある真実はしばしば見ることができない、という事実です。

4年半の間、ナタール州で暴力が行われてきたのは事実です。それは黒人と黒人との間の対立です。それは二つの黒人の政治団体が衝突をしたわけで、その事をおっしゃっているのならば、それは確かに憂慮の対象となるでしょう。

これは、部族内の政治的な意見の違いからくる対立であって、ANCとしては組織を動員して、その解決にあたりました。例えば私は国内から、その運動のチーフであるブテレジ・インカタ議長に、ザンビアのルサカに行ってANCのタンボ議長と会い話し合うように、という手紙を送りました。

この対立は確かに黒人のリーダーシップの信用を落とすものです。解決にあたっての責任はわれわれにあります。そして、ANCとしては、直ちに行動したわけです。ブテレジ・インカタ議長はこの私の手紙を、南アフリカの国内外で公表しております。

さらにまた、私は牢獄から出た時に、ANC とインカタによって共同作業委員会がつけられている、ということを知りました。この委員会は過去2年間、この問題解決のため非常に努力しております。加えて、今年の7月24日、ANC は理事会において、4人のリーダーを選び、先ほどの委員会と共同して問題解決に当たるように指示しました。この委員会は、その後、非常に立派な仕事をし、暴力問題の解決に関してインカタと合意に達し、この合意は現在でも有効です。

次に皆様方をお願いしたいのは、この問題に関しては、次のようなことがあるということ踏まえて判断していただきたい、ということです。

#### ANC の破壊工作？

政府が ANC と他のグループとの間に対立があるということを見て、それを利用しにかけ、それによって白人支配にとって最大の脅威と思っている ANC を破壊しようとしたことです。私は直ちにデクラークに要請して、(私的な、あるいは公的な会合の両方において、私が彼に直接話したことでありますけれども)「あなたは非常に強力にして効率的な軍隊と警察を持っており、かつては暴力を鎮圧するために使ったではないか。なぜ、今度の暴力にあたって、それを行おうとしないのか」と詰問したのです。

それに対して、彼は何も答えることができませんでした。私はさらに、「あなたはわれわれを利用しようとしている。あなたは ANC を破壊しようとしているのだ」と詰め寄ったのであります。これが事実です。

さらに、皆様方に判断材料を提供するために、具体的な例を挙げたいと思います。今年の7月の初旬、私はインカタがヨハネスブルクに集まり、そこから別の町を攻撃する、という確かな情報を得ました。どういうコースを通るのか、どのような武器を持っているのか、ということも分かったので、そのことを南アフリカの警察庁長官及び、その別の町の警察の長官にも通報したわけです。そして、このインカタの武装軍の侵入を阻止するように要請したのです。

具体的に何が起こったのかは、ここにいらっしゃる日本の総領事の方が証言して下さると思います。南アフリカの警察は武器を持ってそこには行ったのですが、阻止するためではなかった。南アフリカの警察が武器を持った黒人たちと対立しているところをプレスの人たちが写真に撮ったが、そこで30人の人たちが殺されているという写真も撮ったわけです。

そこで私はまたデクラークに会って、「どうしてあれを阻止しなかったのか、具体的な情報をちゃんと提供したではないか、どうして警察は介入しなかったのか、あれだけたくさんの人たちが殺されたではないか」ということを再び詰問したわけです。これには犯罪者が参加しており、彼らがそのような行為を行ったのですけれども、だれも逮捕されておられません。

これに関しても、彼は何も答えることはできませんでした。私は事実をよく知っています。なぜならば私はンコビさん(ANC 財務部長)と2日後にその町に行って、現にそれを見ているからです。それに対して、デクラークは「500人の追加部隊とヘリコプターを送ったではないか」と言いました。私は「何も私を守るために軍隊を送ってくれと言ったのではない。国家の首長としてなぜ公式にあのような行動を非難し、それを阻止する行動を取らなかったのか」ということを言ったのであります。

決して、この事件は孤立した事件ではありません。他にも類似の事件がありますが、これらは明らかに誇張されていて、しかもそれは南アフリカの保安部隊と軍の情報部とが策動してでっちあげたことです。

政府に対してわれわれは具体的な証拠を提供していません。モザンビークのレナモ運動と同じで、いわばプロの殺し屋が参加している。彼らは効率的に冷血にプロとして、女でも子供でも老人でも殺し、殺すやいなやパッと消えていく連中です。保安部隊はそれを止めるどころか、黙視し、さらにわれわれの交渉への行動に関心も示さない。彼らはそれを遅延させようとしており、そして政府はそれを止めようとしません。止めよう

とすれば止める力があるにもかかわらず、止めようとしないというのが事実です。

マーシャ・ステパネック (ナショナル・パブリック・ラジオ): 86年に中曽根前首相が、黒人は識字率が劣っていると言いき、88年にも渡辺美智雄自民党政調会長が、黒人はクレジットカードを乱用して無駄をする傾向があると聞き、先月また梶山法務大臣があのような発言を行った。その結果、アメリカでは黒人が大變腹を立てて、梶山法相の罷免を要求しています。このような度重なる黒人に対する軽視の言葉を、あなたはどうか思われるのか。

二番目には、そのことに関してあなたは明快な発言を避けてこられた。それは日本からの経済的な援助をおもんばかっていたことであつたのか。

マンデラ: どうもこの会見においては、女性の方がずばりとした話を好まれるようですね。(笑) 大いに歓迎いたします。私はアジアにまいりまして、世界のどの地域よりも、女性が男女間の平等達成のために熱意を持っている、ということを見出しました。

梶山法相は罷免されるべきか! ?

マーシャ・ステパネック: 梶山法相は罷免されるべきだと思うか、という具体的な質問をつけ加えます。

マンデラ: これに対する ANC 及び私の態度は非常にはっきりしています。われわれは世界のどこであれ、最も強く人種差別を非難します。これこそ、今日の世界に立ち向かっている最大の悪で、これはまたいろいろな形をとるものであります。ファシズム、ナチズム、ヘレンフォルク、反ユダヤ主義、あるいは自分たちは他の民族よりも偉いと思っているあらゆる動き、われわれはこれを強く非難するものです。

南アフリカの最大の問題は人種主義で、多くの人たちがそのために牢につながれ、あるいは死んでいきました。そして、今日の世界の一つの特色は、日本を含めあらゆる国で、この問題すなわち人権の抑圧と闘うた

めに行動しよう、という人たちがどんどん増えてきたことです。そのような行動をとるために、世界を一つの活動の場としてみる人たちが増えてきたことです。

日本の多くの人たちは、個人であれ、大臣であれ、人種差別的な行動を認めないでしょう。このことは過去3日間の滞日における経験によって、私にも非常にはっきりと分かってきております。

しかしながら、私は次のようなことも言っています。それは、日本のリーダーはこの問題も含め、いろいろな問題を有能に解決することができる力を持っている人たちであるということです。大切なのは、私は個人としてはこの人種主義の強力な敵であるけれども、このことはその国の人たちに任せたいほうがいいということです。

梶山法相を罷免するべきであるかどうかという質問に対しては、その問題もまた日本人自身によって解決されたほうがよい問題です。日本人たちが彼をそのポジションに就けたのであり、日本人たちが彼を選挙で選んだのであります。もし日本人たちが、このような発言をしたことの結果として彼を欲しないならば、彼に反対するデモやアジテーションが起こるでしょう。いずれにしても、この問題は日本人たちに任せておいたほうがよい問題だと思ひます。

通訳 小松達也

文責・編集部

### ネルソン・マンデラ氏

1918年生まれフォートヘア大学、ウィッツ大学などで法律を学び、44年ANC(アフリカ民族会議)青年同盟の設立に参加、50年ANC青年同盟議長。60年シャープビル事件発生。ANCはPACとともに、非合法化される。61年ANCの軍事部門「ウムコント・ウエ・シズウェ(民族の槍)」を設立したが、62年逮捕拘留され、以後27年間獄中に。1990年2月11日に釈放され、3月ANC副議長に選出された。